

【平成 20 年度・後期学期・ミクロ経済学 II・中間試験】

☆ 【問 1】～【問 4】までは多肢選択問題です。最も適当な選択肢を一つだけ選んでください。

【問 1】 企業の短期の供給関数について、下の文章のうち最も適当なものを選びなさい

- (ア) 企業の短期の供給関数は平均費用曲線の上昇部分を指す。
- (イ) 企業の短期の供給関数は限界費用曲線の上昇部分すべてを指す。
- (ウ) 企業の短期の供給関数は平均可変曲線の上昇部分を指す。
- (エ) 企業の短期の供給関数は、限界費用曲線の平均可変費用の最低点よりも上の部分である。
- (オ) 企業の短期の供給関数は、限界費用曲線の平均費用の最低点よりも上の部分である。
- (カ) 上述の (ア)～(オ) はすべて誤りである。

【問 2】 経済学における短期と長期の違いについて、下の文章のうち最も適当なものを選びなさい。

- (ア) 経済学における長期とは 1 年以上を指す。
- (イ) 経済学における長期とは 5 年以上を指す。
- (ウ) 経済学における短期とは、生産に利用する生産投入要素のうち固定的なものが存在する期間である。
- (エ) 経済学における短期とは、販売できる生産物が固定的な期間である。
- (オ) 上述の (ア)～(エ) はすべて誤りである。

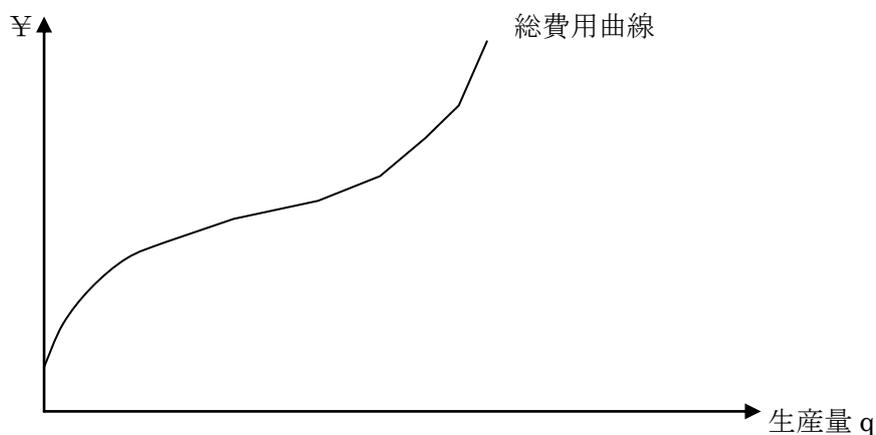
【問 3】 完全競争市場における企業が利潤最大化している場合について、下の文章のうち最も適当なものを選びなさい。

- (ア) 完全競争市場において、企業は自らの生産物の市場価格を設定することができる。
- (イ) 完全競争市場における企業にとって、市場価格と平均費用関数の最小値と一致するとき、企業の利潤は正の値（プラス）である。
- (ウ) 完全競争市場における企業にとって、市場価格が平均費用の最小値点と平均可変費用の最小値の間にある時、企業の利潤は負の値（マイナス）であり、企業は操業を停止する。
- (エ) 完全競争市場における企業にとって、市場価格が平均費用の最小値と平均可変費用の最小値の間にある時、企業の利潤は負の値（マイナス）だが、固定費の一部を賄えるので操業する。
- (オ) 完全競争市場における企業にとって、市場価格が平均費用の最小値と一致するとき企業の利潤はゼロとなり、企業は操業を停止する。
- (カ) 上述の (ア)～(オ) はすべて誤りである。

- 【問 4】 完全競争市場にある企業について、下の文章のうち最も適当なものを選びなさい。
- (ア) 完全競争市場において、企業は自社の産出物を差別化できるように生産している。
  - (イ) 完全競争市場において、典型的な企業の利潤が正であるとき、その企業は永遠に正の利潤を享受できる。
  - (ウ) 完全競争市場において、典型的な企業の利潤が正であるとき、新たな企業がその市場に参入してくる。
  - (エ) 完全競争市場において、典型的な企業は市場価格が上昇すると産出量を減少させる。
  - (オ) 上述の (ア) ~ (エ) はすべて誤りである。

☆ 【問 5】 ~ 【問 6】 は論述・計算問題です。

- 【問 5】 解答用紙に、与えられたよう、総費用曲線を示し、次の(1)~(5)に答えなさい
- (1) 与えられた総費用曲線上の適当な点を選び、固定費と可変費の関係をこの図上で説明しなさい。
  - (2) 限界費用、平均費用、平均可変費用、平均固定費用について数式で定義を述べ、それぞれを総費用曲線の図から導き出す方法を説明しなさい。
  - (3) (2)にしたがって、限界、平均、平均可変費用曲線を作図しなさい。(これらの各費用曲線だけのグラフを与えられたグラフの真下の軸を利用して描き、上の総費用曲線との関係を明らかにすること。)
  - (4) 企業が利潤最大となるように生産高を決定するときの条件を述べ、この企業が正の利潤をあげている状態で、利潤最大となる生産量を与えられた図および(3)で作成した図に描き入れなさい。
  - (5) (4)で表した企業および市場が最終的な市場均衡(つまり、市場価格=平均費用の最少値となる)に至る過程を説明しなさい。



【問 6】 次のように生産関数が与えられている場合について答えなさい。(但し、 $Y$  は生産量、 $K$  は資本投入量、 $L$  は労働投入量とする)

$$Y = F(K, L) = K + 5\sqrt{L}$$

- (A) この生産関数が規模に関して収穫逓減、一定、もしくは逓増であるかどうか判定し、これを証明しなさい。(具体的な数値を使って説明しても構いません。)
- (B) 経済学における短期・長期の違いを、この生産関数の文脈の中で説明しなさい。
- (C) いま、 $K=15$  とあらかじめ与えられている場合、この生産関数を  $L$  のみの関数としてグラフに表しなさい。
- (D) 労働についての  $MPP_L$  (限界生産物、限界生産高、もしくは限界生産力) を言葉で説明したのち、(C) で求めた生産関数について、 $L=15$  と  $L=30$  の場合の生産高と限界生産高を求めなさい。
- (E) 今、(C) の状況において、投入要素  $K, L$  に掛かる費用関数<sup>※注 2</sup>が  $TC(L) = 1.5 + L$  で表されるとしたとき、ただし、 $Y$  の価格は 1 とする。
- (ア) この費用関数のグラフを (C) で描いた図上に書き足しなさい。

企業の利潤がどのようにあらわされるか言葉で説明した後、(C) ~ (E)- (ア) の状況に対する利潤関数を数式で示しなさい。また、この利潤は上の図ではどのように表されるか(読み取れるか)説明しなさい。

---

※注 2 通常扱う総費用関数は生産物の産出量の関数で  $L$ (労働)の関数ではありません。